

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成31年度 第1回社会教育委員会議小委員会		
事務局 (担当課)	生涯学習部生涯学習課 電話042-769-8286(直通)		
開催日時	平成31年4月15日(月)午後2時~4時		
開催場所	相模原市役所 第2別館5階 教育委員会室		
出席者	委員	6人(別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	6人(生涯学習課長他5人)	
公開の可否	可	不可	一部不可
	傍聴者数	3人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 あいさつ 2 議題 (1) 研究調査「今後の地域コミュニティづくりにおける社会教育の役割」について ア 骨子案について イ その他 3 その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言)

1 あいさつ

石川委員長のあいさつの後、石川委員長の進行により議事が進められた。

2 議 題

(1) 研究調査「今後の地域コミュニティづくりにおける社会教育の役割」について

ア 報告書の構成について

事務局から説明を行い、その後協議に入った。

主な意見等は次のとおり。

社会教育が、地域の中に浸透して、みんなで豊かな社会を作っていく下地になれるのであれば、「人づくり、場づくり、仕組みづくりの実践と豊かな地域社会の創造」という副題がいいのではないか。

コーディネーターは人づくり、場づくり、仕組みづくりにおいて、大事な役割を担っていく。報告書の様式は、フレーズごとに200字程度の箇条書きでまとめるのがよいと思う。

地域で様々な団体が活動をされている中で、公民館がどのような取組をすればいいのかということがあまり議論されておらず、社会教育、生涯学習が果たす役割を具体的に議論した方がいいのではないか。

様々な団体がある中で、社会教育が果たすべき役割やどういう場があったら一般の人の意識変化につながられるのか。

社会教育がどのように行動していくのかを、市民協働や福祉などの別の取組を記載しながら見せることで理解が進むのではないか。

相模原市や地域コミュニティの状況を図示すると分かりやすいのではないか。

子育て世代が集まる健診などの場所に行くだけで、直接人から多くの情報が得られることもあり、こうした取組が必要かと思う。そうしたことで行動範囲も広がっていく。

地域のつながりが弱くなってきているが、地域社会は子供たちの成長を支える場ということを念頭に、行政の情報を地域の団体が提供してサポートするというニーズが公民館で活動されている方にはある。

連携ということがいろいろな場所に出てきてもいいのではないか。もう一つは、情報発信をどのように行っていくか。

連携は、具体的に誰がどのようにして動いていくのかということが重要である。

人と人が実際に結び付く、暮らしの中の必然性に基づく絆が出来るのは、埋もれてしまっているニーズの掘り起こしだと思う。そうしたニーズは福祉の窓口などにあるのではないか。暮らしの切実さから生じるニーズを学びの形にどう転換していくかが社会教育であり、実現化していくのが各種団体であったりする中で、つなぎ、学び化するのが社会教育ではないか。

- 社会教育士について、どういう役割が求められているのか。どういう学び・研修が必要か、必要な情報は何か、必要なスキルは何か、こうあってほしいという人物像を掘り下げていくこ

とで提言につながるのではないか。

公民館は、仲間が集まって自分たちのやりたいことをやる場なので、仲間づくりから始める必要がある。コミュニティづくりの場であるならば、誰が来ても勉強できるような仕組みが必要ではないか。仲間に入れない人もいるので、最初のきっかけを作れる場、出会いの場があるといいと思う。

仕組みがなくても、居場所があって、そこで声をかける人がいて、ニーズが拾えれば機能するのではないか。札幌市のレッツという勤労青少年ホームが元の施設では、ロビーに溜まっている青少年たちをつなぐロビー活動を職員は大事にしている、ロビーワーカーの研修も行っている。場を提供するのではなく、場に来た人に声をかける、つなぎ役、コーディネーターになることが重要だと思う。

その場に来て終わりではなくて、つながるきっかけを作れる人材が重要だと感じた。公民館の機能拡充において、ハード的な部分が進んでいるのであれば、ソフト面を提案していくというのも考えられる。

一人暮らしだと所属を感じにくいので、そこにニーズがあるのではないか。子育てもやって当たり前と思われている中で、つなぐ人を作ることも考えられる。

- 成果が目に見えて、肌で感じられるボランティア活動には人が集まり、自然と課題解決が図られていく。活動によって満たされていく喜び、楽しい気持ち、達成感が誰かを誘うきっかけになって連鎖していく、そうやって必然性が生み出される。

社会教育は、地域の暮らしをめぐる課題に焦点を当ててこなかったが、そこまで相模原の社会教育を広げていくのかどうか。社会教育が、個々の問題に入っていくことには違和感がある。

社会教育というのは、自己実現というものとは非常に関連性が高いと思うが、それ以外のところまで持っていけないか。人はつながっていないと不健康になるので、つながることが重要であるということをお大前提にどうするのか。世代によっては、SNSを上手に使ったつながりもあるのではないか。

人間は一生勉強するものだと思っているので、どこでも教えたり、教えられたりする場があるとよいと思う。

生涯教育は自己完結だが、社会教育は相手があつての活動であり、声かけにしてもファシリテーションの技法が必要であったりする。

社会教育での目標は、一般的にはより良い学習環境だが、より良いコミュニティづくりのための社会教育とするのか。より良い学習環境の提供でいいのではないか。

- 事業や貸し館だけではない、本来公民館にある「学習相談の機能」をロビーワーカー的な人材が担えるのではないか。
- 来る人を待っているだけではなく、こちらから仕掛ける仕組みをどう作るか。相模原モデルとして、ロビーワーカーの設置などはあり得ると思う。

コミュニティづくりは、成果指標の管理になじまない。学習環境づくりの結果として、相模原に豊かなコミュニティが創造されるのではないだろうか。

イ その他
特になし

3 その他

事務局において、次回の小委員会の日程調整を行った。

石川委員長のあいさつにより、会議を終了した。

以 上

平成30年度 第5回社会教育委員会議小委員会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠
1	佐藤 正文	相模原市立小学校長会		欠席
2	渡邊 亮	相模原市公民館連絡協議会	副委員長	出席
3	大橋 千景	虹のおはなし会		出席
4	石川 利江	学識経験者（桜美林大学教授）	委員長	出席
5	古矢 鉄矢	学識経験者（学校法人北里研究所参与）		出席
6	青木 智野	公募		出席
7	藤井 智	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク 常務理事		出席

出席者6名 欠席者1名